

修士論文（要旨）
2022年1月

中国人中上級日本語学習者のコミュニケーション能力の向上
- 言い換えストラテジーを中心に -

指導 齋藤 伸子 教授
言語教育研究科
日本語教育専攻
220J3006
李 雨萌

Master's Thesis (abstract)
January 2022

Improving Communication Skills of Chinese Intermediate and Advanced Japanese Learners: Focusing
on Paraphrasing Strategies

Li Yumeng
220J3006
Master's Program in Japanese Language Education
Graduate School of Language Education
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Saito Nobuko

目次

第1章 はじめに.....	1
1.1研究背景・動機.....	1
1.2研究目的.....	1
第2章 先行研究.....	2
2.1言語学習ストラテジーとコミュニケーション・ストラテジー.....	2
2.2コミュニケーション・ストラテジーの定義.....	2
2.3JFL中国人学習者のコミュニケーション・ストラテジーの使用.....	3
2.4コミュニケーション・ストラテジーに関する実証研究.....	4
第3章 調査Ⅰ.....	5
3.1言い換えストラテジー指導効果についての調査概要.....	5
3.2調査協力者.....	5
3.3データ収集方法および分析方法.....	7
3.4言い換えストラテジーの指導.....	8
第4章 調査Ⅱ.....	9
4.1言い換えストラテジーに対する意識と実態調査概要.....	9
4.2調査協力者.....	9
4.3データ収集方法および分析方法.....	10
第5章 結果と分析.....	10
5.1調査Ⅰ.....	10
5.1.1言い換えストラテジーの使用頻度.....	10
5.1.2会話の分析.....	13
5.1.3評価項目表についての分析.....	19
5.2調査Ⅱ.....	21
第6章 考察.....	25
第7章 おわりに.....	27
7.1まとめ.....	27
7.2今後の課題.....	28

参考文献

中国の大学で日本語を学び、その後留学により来日した中国人日本語学習者が実際のコミュニケーションの経験が不足しているため、コミュニケーション上の問題にうまく対処できず、それが円滑なコミュニケーションの進行を妨げる要因となっている。学習者のコミュニケーション能力の向上にもマイナス影響を与えられと考えられる。そこでは、円滑なコミュニケーションを維持するために、コミュニケーション・ストラテジーを有効に利用し、コミュニケーション上の問題に対処することが不可欠なことだと考えられる。

また、コミュニケーション・ストラテジーの中で、言い換えストラテジーはほかのコミュニケーション・ストラテジーに比べアウトプットとして働く度合いが強いため、言い換えストラテジーの運用がコミュニケーション能力の向上につながると考え、本稿では言い換えストラテジーの指導を通して、中国人日本語学習者の使用意識がどう変わったか、また言い換えストラテジーを意識的に使用することがコミュニケーション能力の向上につながるかを明らかにするため調査を行った。

その結果、まず、指導前より指導後の方が言い換えストラテジーの使用頻度が増加している。また、半構造化インタビューでの使用意識の変化から見ると、学習者 C1, C2, C3が言い換えストラテジーに対する意識が高まったということが明らかになった。更に、評価項目について分析することによって、指導後の方は学習者 C1, C2, C3の高い得点が見られ、流暢さや言い換えストラテジーの使用意識において日本語母語話者が感じたほどの変化が現れたということが明らかになった。

以上、言い換えストラテジーの指導を受けた翌日に、学習者 C1, C2, C3は言い換えストラテジーを意識的に使え、言い換えストラテジーの使用意識が高まったという結果になった。

次は、調査Ⅱ(言い換えストラテジーに対する意識と実態調査)を実施したことによって学習者 C1, C2, C3は①コミュニケーションを円滑にさせること②日本語を学習すること③心理的な要因といった要因で6ヶ月を経たものの日本語母語話者とのコミュニケーションに言い換えストラテジーを意識的に使えているということが明らかになった。中国人日本語学習者3人が自らの力でコミュニケーション上の問題を解決する意識が高くなり、言い換えストラテジーに対する意識が高まったという結果になった。

最後、言い換えストラテジーを意識的に使用したことで会話の進行への影響や学習者自分自身への影響から言い換えストラテジーを意識的に使用したことがコミュニケーション能力の向上に効果的であるということを示した。指導前と比べると指導後の会話が中断することが少なくなり、会話のやりとりが活発に行われたということが観察された。また、日本語母語話者からの評価を分析した結果、指導後の会話が円滑に進んでいた、弾んでいたとしている。学習者自分自身への影響に関しては、指導前後の会話や日本語母語話者からの評価及び調査Ⅱ(言い換えストラテジーに対する意識と使用実態調査)を分析することによって言い換えストラテジーを意識的に使用したことで学習者のそれぞれがコミュニケーションにおいて悩んでいることが解決でき、意味伝達力や発話意欲において強くなり、円滑なコミュニケーションを維持できるようになったということが明らかになった。その結果、言い換えストラテジーを意識的に使用することがコミュニケーション能力の向上につながるとしている。

参考文献

- 青木直子、尾崎明人、土岐哲(2001).『日本語教育学を学ぶ人のために』.世界思想社, 252p.
- 宇佐美まゆみ(2007).「改訂版:基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese:BTST)2007年3月31日改訂版」『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』
- 荻原稚佳子(1996).「日本語学習者のコミュニケーション・ストラテジー使用の縦断的研究」『講座日本語教育』, 31, 74-92.
- 金シミン, 赤堀侃司(1997).「日本語学習者を対象にしたコミュニケーション方略のトレーニング効果の分析」『日本語教育』, 93, 49-60.
- 小澤淑子(2011).「外国語としての英語教育におけるコミュニケーションストラテジー指導」『愛知きわみ看護短期大学紀要』, 7, 1-9.
- 小林ミナ(2000).「「何を」教えるかの再吟味へー日本人評価研究の意義と限界ー」『北海道大学留学生センター紀要』, 4, 149-159.
- 迫田久美子(2002).『日本語教育に生かす第二言語習得研究』.株式会社アルク, 242p.
- 佐藤剛(2019).「聞き手を意識したプレゼンテーションの指導実践ー聞き手の理解を得るためのストラテジー指導からー」『弘前大学教養教育開発実践ジャーナル』, 3, 23-25.
- 椿由紀子(2010).「コミュニケーション・ストラテジーとしての「聞き返し」教育ー実際場面で使用できる「聞き返し」をめざしてー」『日本語教育』, 147, 97-111.
- 西香織(2016).「口頭試験における初級中国語学習者のコミュニケーション・ストラテジーー「聞き手」を中心にー」『北九州市立大学国際論集』, 14, 117-133.
- 原田早苗(1998).「効果的な外国語学習ストラテジーとは?」『フランス語教育』, 26, 48-63.
- 藤長かおる(1996).「初中級学習者のコミュニケーション能力についての考察」『日本語国際センター紀要』, 6, 51-69.
- 文化庁(2019)「令和元年度国内日本語教育の概要」
https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku_jittai/r01/
- 方穎琳(2010).「接触場面における中国人日本語学習者のコミュニケーション・ストラテジーの使用ー意味伝達を解決するための伝達ストラテジーを中心にー」『言語文化と日本語教育』, 39, 122-131.
- 柳田直美(2008).「中国人学習者に対する「聞き手ストラテジー」指導の効果ー授業活動と日本日本語母語話者の対中国人学習者評価からー」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』, 23, 15-30.
- 吉田さち(2014).「日本語学習者の言語運用に対する日本語母語話者の評価ー場面により母語話者の評価は異なるかー」『コミュニケーション文化』, 8, 27-43.
- 渡部倫子(2004).「日本語口頭運用能力の評価基準に対する日本語母語話者の意識調査ー学習者との接触機会による相違ー」『広島大学日本語教育研究』, 14, 81-87.
- Canale, M. (1983). Communicative competence to communicative language pedagogy. In: Richards, J & Schmidt, R (eds.) *Language and Communication*, 2-25. London: Longman.

Faerch, C. & Kasper, G. (1983). Plans and Strategies in foreign language communication in Strategies. In: Faerch, C & Kasper, G (eds.) *Interlanguage Communication*, 20-60. London: Longman Pub Group.

Oxford, R. L. (1990). *Language learning strategies: What every teacher should know*. Boston: Heinle and Heinle/Cengage.

Rubin, J. (1975). What the "Good language learner" Can Teach Us. *TESOL Quarterly*, 9(1), 41-51.

Tarone, E. (1980). Communication Strategies, Foreigner Talks, and Repair in Interlanguage. *Language Learning*, 30, 417-431.

高海虹 (2000) . <交际策略能力与研究报告—观念与应用> 《外语教学与研究》, 1, 53-58.

孙峰, 文小梅 (2013) . <口语交际策略的应用研究> 《山西广播电视大学学报》, 3, 72-74.

钟泽洲 (2009) . <谈外语教学中交际策略的教授方法> 《广州广播电视大学学报》, 4, 34-39.